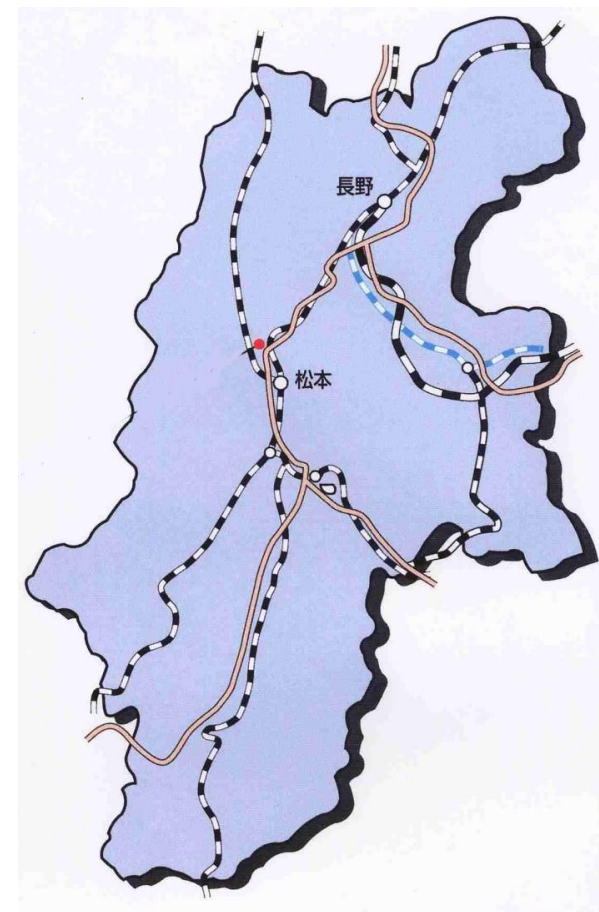


長野県立こども病院 在宅医療連携拠点事業活動発表



長野県立こども病院沿革

- 1993年5月
開設(60床)
- 2000年9月
総合周産期母子医療センター 開設
(117床)
- 2009年2月
在宅医療支援病棟開設(163床)
- 2010年4月
地方独立法人長野県立病院機構へ
- 2012年10月 170床へ
NICU3床増、PICU後方病床4床
新設



人口: 2,129,313人
出生数: 16,887人
(平成24年)

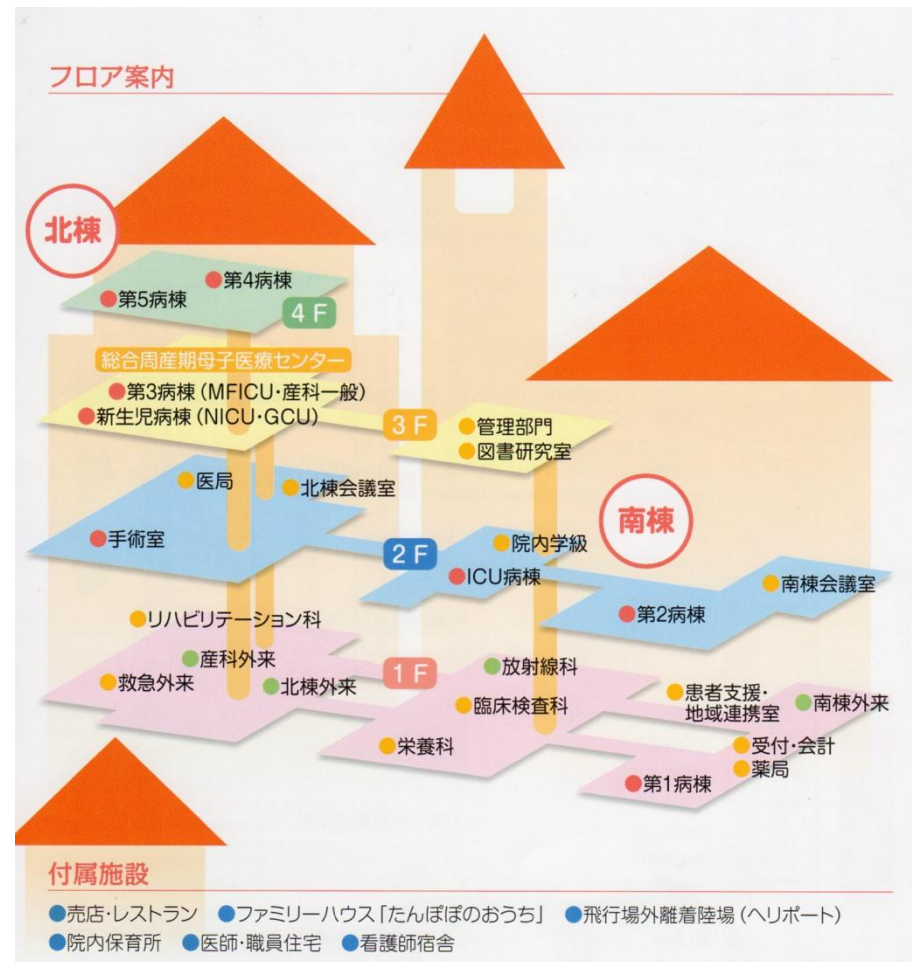


病院概要

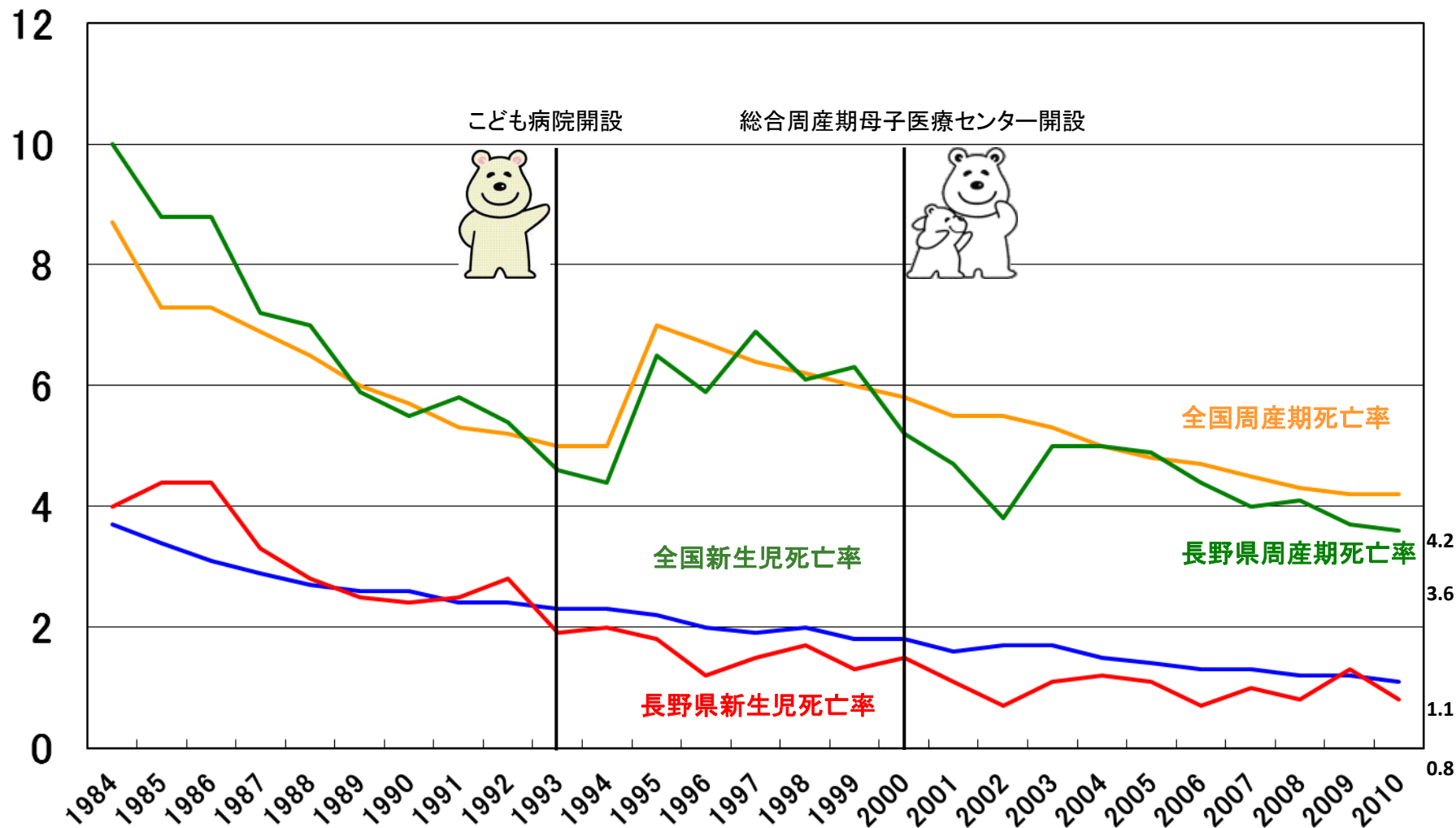
■ 病床数 170床

- NICU 42床
- PICU 8床
- 産科病棟 27床(うちMFICU6床)
- 一般病棟 93床
(うち在宅医療支援11床、PICU後方4床)

- 医師 112名(常勤83名)
- 看護師・助産師 281名(助産師21名)
- 医療技術職 63名



新生児死亡率と周産期死亡率



超重症児

医学的管理下に置かなければ呼吸することも
栄養をとることも困難な障害状態にあるこども

■ 全国(20歳未満)

- 1000人対0.15～0.45人、全国でおよそ7,000人。
- (2007年日本小児科学会倫理委員会調べ)

■ 長野県

- 重症心身障害児者 1,035人
- 人工呼吸器を装着した児 110人前後
 - 在宅:約50～60人
 - 入所:約40人
 - 長期入院児:13人

(長野県長期入院児等支援コーディネーター 河野先生推計2011年)



こども病院で把握している 人工呼吸器装着患者

■ 人工呼吸器装着患者

□ こども病院管理中 15名

□ こども病院待機中 5名

□ 他院管理中 16名

■ こども病院気管切開患者 14名



多職種連携に関する地域の課題

- 重症小児をケアする人材の不足
 - こども病院への依存意識が強い
 - 医療的ケアを実施する上での不安
- 多職種の連携を確立しにくい
 - 面積が広く、山間部が多い地理的要因
 - 資源が都市部に偏在
- 教育機関との連携不足
 - こども病院における人材不足



小児在宅医療患者受け入れ可能診療所 24施設



小児在宅受け入れ確認アンケート

	送付先	回答数	回収率(%)	小児可能
病 院	100	59	59	23
診療所	225	97	43.1	24
訪問看護ステーション	133	74	55.6	16+24
福祉事業所(児童デイ)	55	31	56.4	20



診療所 受け入れ条件

◆病院のバックアップ体制

365日24時間の病院医療のバックアップ

緊急入院や相談できる体制などのバックアップ

増悪時のサポート体制がしっかりしていること

◆連携・協力・家族の理解

病院との連携が良好にできていること

小児科医との連携があれば

他の多職種との協力体制

病院(前医)パラメディカル家族の協力があれば

保護者が疾患について十分に理解している場合

いくつかは未経験のため、十分な個別情報の引き継ぎと指導を



訪問看護ステーション 受け入れ条件

◆ 病院・診療所の バックアップ体制

緊急時のバックアップ体制

往診してくれる医師がいること

◆ 連携・協力・研修

利用件数少ないので担当学会議と連携がきちんと取れること

小児は未経験なのでスタッフ全員の研修が必要

カンファランス開いてもらえたら可

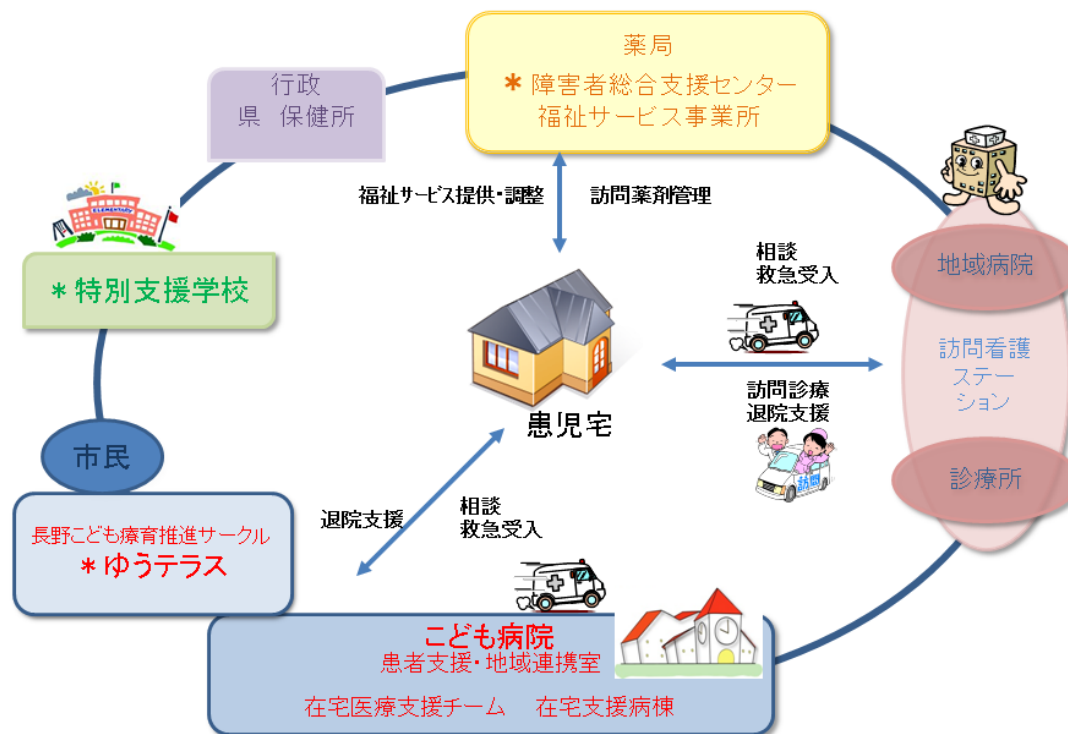
指導・協力あれば可

経験少ないが指導得ながら



長野県立こども病院事業計画

12



- 多職種参加の小児長期入院児等支援連絡会の共催(保健所主導)
- 施設への在宅支援訪問 対象患者の把握と技術指導
(医師、看護師、保健師、理学療法士)
- 任意団体「ゆうテラス」との協働による研修会・学習会の開催. 情報発信基地設置
- インターネット、オンライン会議による患者さん、養護学校、事業所との連携
(情報交換、リハビリ技術指導)
- 個別支援手帳電子ブック版の開発

事業計画 その2

- 24時間対応の在宅医療提供体制の構築
 - 在宅医療支援病棟11床開設(2009年2月)
 - 救急外来の態勢強化(2012年夏)
- 効率的な医療提供
 - 在宅医療的ケアに関するマニュアル作成・配布
- 地域住民への普及啓発と医療従事者に対する教育・研修
 - 在宅療育情報センター(ゆうテラス)を核として立案・運営
 - 胃瘻DVD等のマニュアル作成
- 地域の医療関係職能団体等との連携
 - 多職種参加の小児長期入院児等支援連絡会の共催(前出)
 - 薬剤師会との連携会議



こども病院の態勢

患者支援・地域連携室

- ・ 室長(副院長)
- ・ 看護師 2名
- ・ 保健師 2名
- ・ MSW 2名
- ・ 事務 2名

在宅支援病棟 11床

- ・ 2009年2月開設
- ・ 病床利用率
71.7～78.2%

在宅医療支援チーム

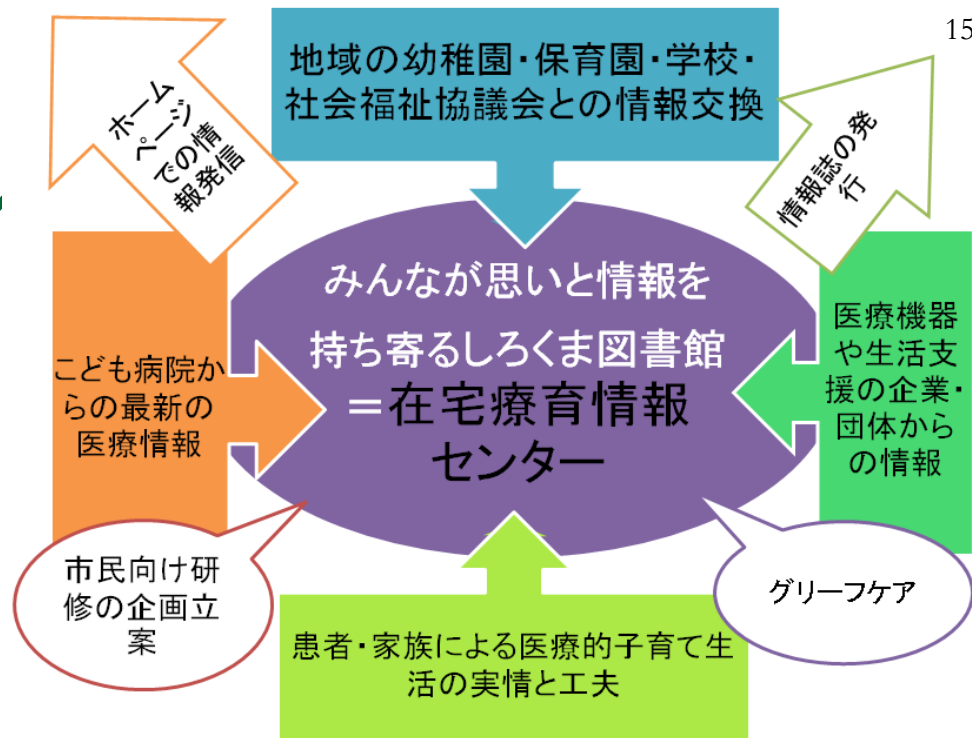
- ・ リーダー:リハビリテーション科部長 1名
- ・ 副院長 2名
- ・ 麻酔科医師 1名
- ・ 総合小児科 2名
- ・ 在宅支援・新生児・
一般小児病棟看護師 3名
- ・ 外来看護師 1名
- ・ 理学療法士 1名
- ・ 薬剤師 1名
- ・ 医療ソーシャルワーカー 2名
- ・ 患者支援・地域連携室看護師 2名
- ・ 患者支援・地域連携室保健師 2名
- ・ 長期入院児等支援コーディネーター 1名



長野こども療育 推進サークル



学校へ行きたい！3にんのあしあと
～重い障害を持つ子のための教育
医療的ケアってどんなもの？
～胃ろう編～



長期入院児等支援連絡会 メンバー

長野圏域3回 松本圏域3回 上田圏域1回

		施設名	出席者				
1	医師会・薬剤師会	松本市医師会	副会長	27	訪問看護	丸の内訪問看護ステーション	所長
2			連携医（小児科）	28			看護師
3			常務理事	29		松本西訪問看護ステーション	看護師
4		安曇野市医師会		30		相澤訪問看護ステーションひまわり	理学療法士
5		松本薬剤師会		31		松本協立訪問看護ステーションすみれ	理学療法士
6		安曇野薬剤師会	会長	32		山形協立訪問看護ステーションなでしこ	看護師
7		女性薬剤師会	理事	33	障害者相談支援センター	障害者総合相談支援センターあるび	コーディネーター
8	医療	こども病院	院長	34		障害者総合相談支援センターWish	所長
9			副院長	35		障害者総合相談支援センターボイス	コーディネーター
10			副院長	36	施設	障害者相談支援センターぴあねっと・まつもと	グリーフ・兼相談支援専門員
11			MSW	37		松本市しいのみ学園	園長
12			看護師	38		ほっぷライフ	係長
13			MSW	39	教育	松本養護学校	訪問教育担当
14			事務	40			教育相談担当
15		松本小児科医会 松岡小児科医院	医師	41		安曇養護学校	
16		あかはね内科・神経内科医院	院長	42	行政	松本児童相談所	主査保健師
17		城西病院	理事長・総長	43		松本市	
18		信州大学医学部附属病院 小児科	医師	44		塩尻市	
19		信州大学医学部附属病院 医療福祉支援センター	ソーシャルワーカー	45		安曇野市 子ども発達支援相談室	保健師
20		まつもと医療センター 中信松本病院	統括診療部長	46		長期入院児等支援コーディネーター	医師
21			小児科医長	47		松本保健福祉事務所	所長
22			児童指導員	48			課長
23			ソーシャルワーカー	49			課長補佐
24			小児科医長	50			係長
25		相澤病院 小児科	小児科医長	51			保健師
26		松本協立病院		52			研修医

松本圏域 参加者



長期入院児等支援連絡会 内容

- 市町村福祉サービスの現状
- 医療的ケアの必要な子どもと家族への在宅生活支援の現状
- 障害児の相談支援体制について
～児童福祉法の一部改正の概要等～
- 重症心身障がい児・者シンポジウム (社会福祉士会との共催)
 - 長野県における重症心身障がい児者の暮らしを考える
 - 医療的ケアのある人の地域生活支援
～医療的ケアのある人を支えるグループホームの実践～
 - シンポテーマ「ここで暮らし続けたい！そのために・・・」
- 地域における療育支援の現状
- 特別支援学校における医療的ケアの必要な子どもへの支援の状況



他院長期入院児の在宅移行支援

派遣スタッフ

- ・ 長期入院児等支援コーディネーター（医師）
- ・ 患者支援・地域連携室 看護師長
- ・ 理学療法士

■ 2011年度

- 長野赤十字病院 毎月1回

■ 2012年度

- 佐久総合病院
- 信州上田医療センター
- 浅間総合病院
- 斎藤診療所
- つむぎの家



2012年に開催した研修会

小児在宅療育研修会(7/26): 障害を持つこどもたちのための遊びと絵本 20名

挿管しているこどもたちの口腔ケア(8/8・9) 17名

障害を持つこどもたちの口腔ケア(9/20) 19名

胃ろうと栄養(9/1・11/17) 20名+19名

障害や病気を持つこどもたちの教育を考えるシンポ(9/30)

重症心身障害児・者シンポ: ここで暮らし続けたい! そのために・・・ 150名

呼吸理学療法(10/13・12/8) 24名+16名

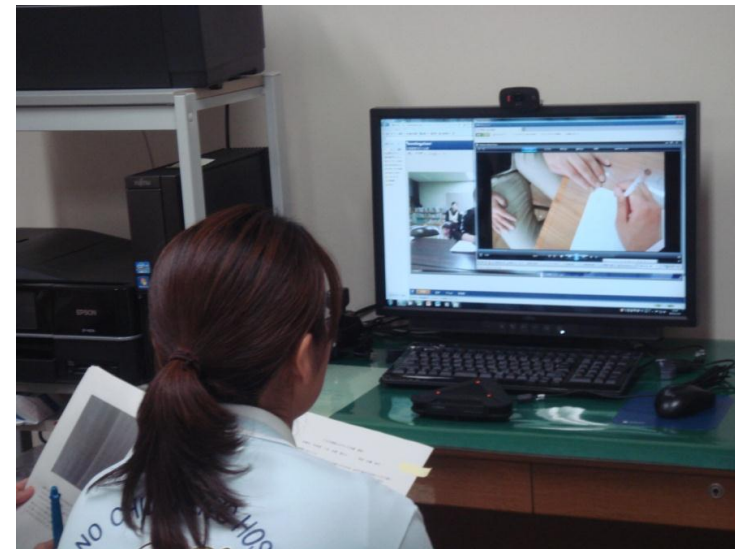
在宅医療を支える医療機器展(11/17)

予定: 小児在宅療育推進シンポ 2/23 ～多職種協働で作ろう! よりよい療育環境～



インターネットを利用したオンライン会議

- 長野養護学校 8回
- 安曇養護学校 2回
- 松本養護学校 2回
- 中信松本病院
- 信濃医療福祉センター
- 佐久総合病院
- 伊那中央病院
- 信州上田医療センター
- 飯田市立病院
- 療育センターらいふ
- 療育センターみらい
- 訪問リハビリ時患者宅(3人・4回利用)
- 養育者支援(1人10回利用)



i-padによる患者さん宅との通信
場面の写真はカットしました。



ステイクホルダー・他機関との連携

■ 薬局との連携

- 長野県薬剤師会研修会 2012年5月27日
 - 調剤薬局薬剤師50名
 - こども病院の院外処方箋剤について
- 長野県薬剤師会との会議 2012年11月15日
 - 薬剤師32名、県薬事務局課長
 - あづみの薬局における訪問薬剤管理指導業務事例報告
 - 外来患者のTPN製剤
 - 在宅介護支援薬局マップ紹介

■ 歯科との連携

- 障害や病気を持つこどもたちのための歯科・口腔ケア研修会 2012年9月20日

■ 救急消防機関との連携

- 小児在宅医療患者緊急搬送時の連絡カード作成
(2013年4月開始予定)



効率的な医療提供の方策

胃ろうDVD 完成



作成中

- 半固形食指導用DVD
- 在宅看護マニュアル(冊子版)





長期入院児数(6か月以上)とその転帰

	新規	在宅へ	在宅移行目的入院	転院	入所	死亡	入院中
H21.4～ H22.3	14	4	0	4	0	6	0
H22.4～ H23.3	16	8	2	2	2	1	1
H23.4～ H24.3	13	6	1	1	2	1	2
H24.4～ H25.1	17	2	0	0	0	3	12

* 今年度増加原因:重症児の増加と入所待ち



今後の展開

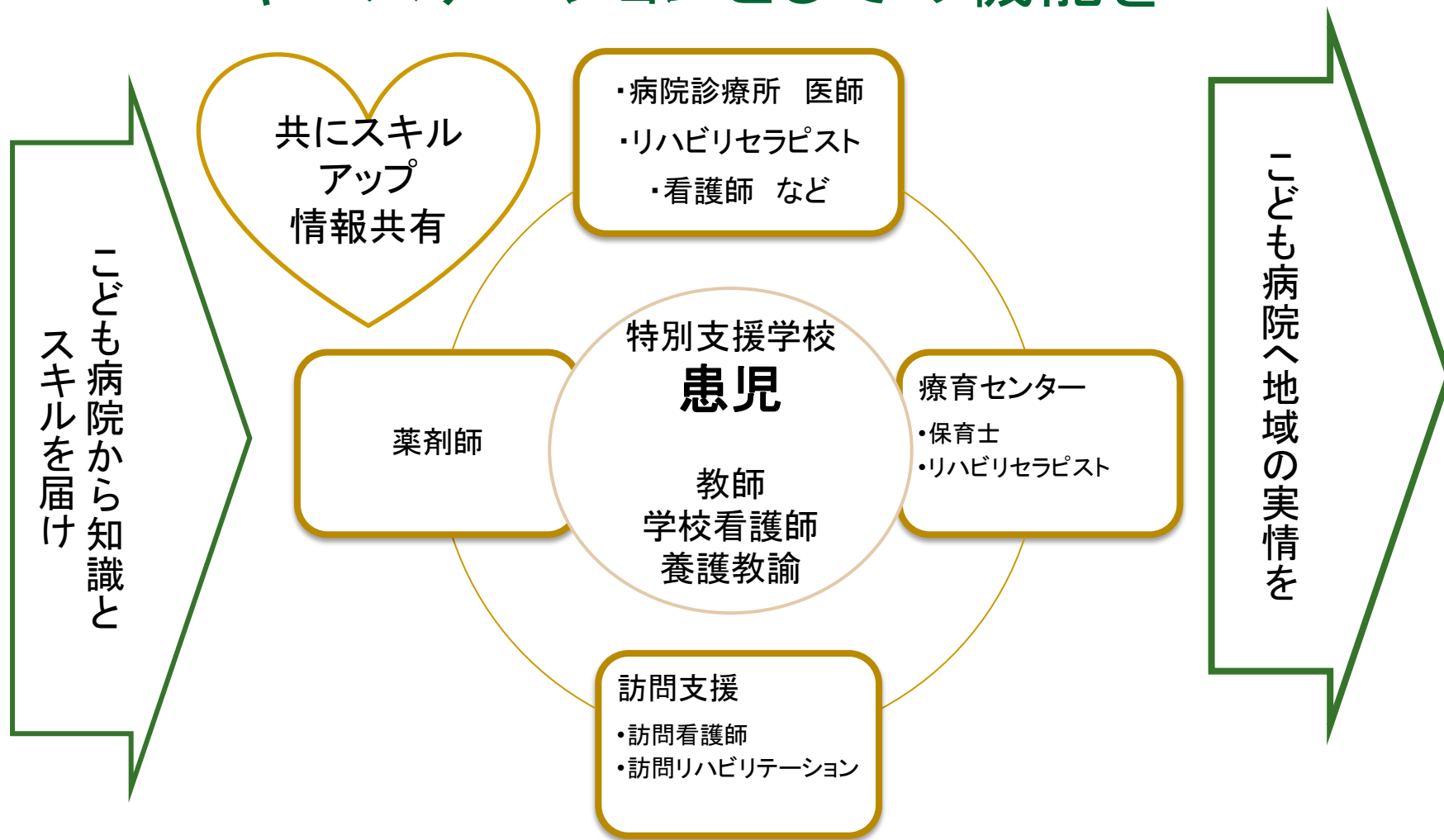
患者・家族、医療・介護福祉関係者の
小児在宅医療に対する不安解消

- 特別支援学校を核とした連携拡大
- 地域小児在宅医療拠点病院構想
- 緊急時連絡カードの使用開始
 - （救急隊へのスムーズな連絡と搬送をめざして）
- 個別支援手帳電子ブック版の作成
- 情報共有連携から意識連携へ

- 在宅支援病棟継続
 - いわゆるレスパイト入院への対応検討
- 長期入院児等支援コーディネーターによる訪問支援継続
 - **医師**中心の事業には推進力があつた



養護学校に地域療育 キーステーションとしての機能を



医療・福祉・教育の壁を越えて顔の見える関係を構築する

